

科目コード ICT021230

科目名	IT ソリューション IT Solution		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・金・3限	秋・金・6限	-	-
担当教員名	大塚 晃	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は学外から講義を実施するが2回程度は講義室から行う場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>IT（Information Technology）は、単なる業務効率化のための技術ではなく、企業や社会における課題解決や価値創造を実現するための重要な手段である。近年では、クラウド、データ利活用、AI、生成 AI 等の技術進展により、IT は個別技術の集合から、複数の技術を組み合わせて価値を提供する「IT ソリューション」へと役割を拡張している。</p> <p>本講義では、IT ソリューションを「課題発見・要件定義から設計、導入、運用、価値創出に至るまでの一連のプロセス」として捉え、情報技術の基礎的な考え方を踏まえつつ、企業活動や社会課題に対して IT をどのように活用すべきかを体系的に学修する。</p> <p>特に、クラウド、データ基盤、AI、生成 AI、情報セキュリティ等を、個別技術としてではなく、IT ソリューションを構成する要素として整理し、実在企業の事例やケーススタディを通じて、IT を用いた事業改善や事業創造を構想できる能力の修得を目的とする。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義を通じて、受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IT ソリューションの全体像を理解し、技術・業務・価値の関係を説明できる。 2. 企業や社会の課題を整理し、IT を用いた解決方針およびソリューション要件を論理的に設計できる。 3. クラウド、データ、AI 等を組み合わせた IT ソリューション案を提示できる。 4. IT ソリューションの導入効果、リスク、実現可能性を評価できる。 <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本講義では、講義形式による解説に加え、以下のアクティブ・ラーニングを取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実在企業の IT ソリューション事例を用いたケーススタディおよび討議 ・グループワークによる IT ソリューションの設計および提案演習 ・発表および相互評価を通じたプレゼンテーション演習 <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>IT ソリューションの実務に携わる企業の技術者や実務者をゲストスピーカーとして招聘し、実務の視点からの講義を行う。</p> <p>（ゲストスピーカーによる講義は、都合により実施回が変更される場合がある。）</p> <p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目： <IT ソリューション概論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：IT を単なる技術ではなく、課題解決と価値創出を実現する「ソリューション」として捉え、本講義全体の目的・構成および評価方法を理解する。 <p>2 回目： <課題発見と要件定義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業活動における課題を構造的に整理し、経営・業務の課題を IT ソリューションの要件へと落とし込む考え方と方法を理解する。 				

3 回目：＜情報技術の基礎と最新動向＞

・要点：IT に関する基本的な用語や概念を整理するとともに、IT ソリューションの構成要素としての最新技術動向を理解する。

4 回目：＜情報システム戦略とソリューション設計＞

・要点：経営戦略と情報システム戦略の関係を整理し、それらを踏まえた IT ソリューション設計の基本的な視点を理解する。

5 回目：＜システム開発プロセスとソリューション実装＞

・要点：ウォーターフォールやアジャイル等の代表的な開発プロセスを整理し、IT ソリューション実装との関係を理解する。

6 回目：＜AI・生成 AI によるソリューション実習 1：ゲストスピーカー（株式会社新潟人工知能研究所）＞

・要点：AI プラットフォームを用いた実習を通じて、AI を活用した IT ソリューションの設計手法を理解する。

7 回目：＜AI・生成 AI によるソリューション実習 2：ゲストスピーカー（株式会社新潟人工知能研究所）＞

・要点：前回に引き続き、AI プラットフォームを用いたソリューション設計に取り組み、各課題の評価結果を分析した上でディスカッションを行う。

8 回目：＜データ基盤とデータ利活用ソリューション＞

・要点：データの収集・蓄積・分析を通じて価値を創出するデータ利活用型 IT ソリューションの考え方を理解する。

9 回目：＜情報セキュリティとリスク管理＞

・要点：IT ソリューションを設計・運用する上で不可欠なセキュリティ要件およびリスク管理、ガバナンスの考え方を理解する。

10 回目：＜技術開発から価値創造：ゲストスピーカー（株式会社 RYODEN）＞

・要点：技術商社における技術開発の取り組みを通じて、技術を価値創造へと結び付ける IT ソリューション事例を理解する。

11 回目：＜技術開発から価値創造の討議＞

・要点：第 10 回の講義内容をケースとして、IT ソリューションにおける課題設定や価値創出の視点についてグループ討議を行う。

12 回目：＜IT ソリューションを成功に導くマネジメント＞

・要点：IT ソリューションのライフサイクルにおいて、プロジェクトマネジメント、プロダクトマネジメント、サービスマネジメントが果たす役割と相互関係を理解する。

13 回目：＜社会・インフラ分野の IT ソリューション：ゲストスピーカー（東日本高速道路株式会社）＞

・要点：高速道路を例として、交通や安全といった社会課題に対して IT ソリューションが果たす役割を理解する。

14 回目：＜IT ソリューションにおける ELSI＞

・要点：IT ソリューションを設計・導入する際の経営要件として、ELSI (Ethical, Legal, Social Issues) の考え方と重要性を理解する。

15 回目：＜IT ソリューションの総括と事業活用＞

・要点：講義全体を総括し、IT ソリューションを事業創造・事業革新に活用するための視点を整理す

科目コード ICT021230

る。

<講義の進め方>

各回の講義は、担当教員による解説を中心としつつ、实在企業の事例やケーススタディを用いた討議、グループワークおよび発表を組み合わせる。

講義では、個別の技術解説に偏ることなく、企業や社会の課題に対して IT をどのように組み合わせ、ソリューションとして設計・評価するかという視点を重視する。

また、理解の定着を図るため、必要に応じて演習やディスカッションを行う。

<事前事後学習内容>

各回の講義に先立ち、配布資料や指定された参考資料を精読し、講義で扱う論点や課題について整理しておくこと。

講義後は、講義内容およびケーススタディや討議を踏まえ、IT ソリューションの設計や評価に関する要点を整理し、理解を深めること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。

講義に必要な資料は担当教員が配布する。必要に応じて参考文献や関連資料を提示する。

<参考書>

「DX 動向 2025」、情報処理推進機構著・編、2025 年 7 月

情報処理推進機構から無料ダウンロード可能

<https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/dx-trend-2025.html>

「教養としてのコンピュータサイエンス講義」、ブライアン・カーニハン著、日経 BP、2020 年 2 月

「経営と情報システム」、関川弘著、学術図書出版社、2024 年 4 月

「AI 経営講座 スーパーエッセンシャル版」、東京大学松尾・岩澤研究室、インターナショナル新書、2025 年 10 月

「世界の未来を切り拓く「眠れる技術」ディープテック」、丸幸弘、尾原和啓著、日経 BP、2019 年 10 月

「テック系スタートアップのビジネスモデル」、井上達彦著、東洋経済新報社、2025 年 3 月

「プラットフォーム革命」、アレックス・モザド、ニコラス・L・ジョンソン著、英治出版、2018 年 4 月

「新版 IT コンサルティングの基本」、克元亮著、日本実業出版社、2021 年 5 月

「新版 SE の基本」、山田隆太著、日本実業出版社、2022 年 3 月

「IT Text ソフトウェア開発 改訂 2 版」、小泉寿男他著、オーム社、2015 年 3 月

「教養としてのデータサイエンス」、北川源四郎他著、講談社、2021 年 6 月

「AI 白書 2025」、岩澤有祐監修、KADOKAWA、2025 年 3 月

「改訂 7 版 PM プロジェクトマネジメント」、中嶋秀隆著、日本能率協会マネジメントセンター、2022 年 3 月

「プロダクトマネジメントのすべて」、及川卓也著、翔泳社、2021 年 3 月

「ITIL4 の基本 図解と実践」、中寛之著、日経 BP、2022 年 10 月

「情報セキュリティ白書 2025」、情報処理推進機構著・編、2025 年 9 月

情報処理推進機構から無料ダウンロード可能

<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-security/2025.html>

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

中間レポート、最終レポート、講義でのディスカッションを 3 : 4 : 3 の比率にて評価する。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

講義、Teams にて全体にフィードバックを行う。なお、内容により個別にフィードバックを行う。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

メール(otsuka.akira@jigyo.ac.jp)にて連絡のこと。

<その他>

講義で使用するテキストに加え、参考書、および IT に関する技術・ビジネス分野に関する書籍、新聞記事を適宜学修のこと。

なお、ゲストスピーカーからの講義は、都合により夜講義のみの合同講義になる可能性がある。